

(様式 5)

事業所名 グループホーム椿
作成日: 平成 24年 1月 23日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践 職員一人ひとりのアイデア・思いをまとめた形の理念となっているが、やや長文となっている為、利用者に伝わりにくい。	職員間の意識の共有のみならず、利用者や関係者にも事業所の方針を理解して頂けるよう、わかりやすく簡潔な理念に作り変える。	・職員各自で新理念の提案を考える。 ・各自で考えた案を持ち寄り、ケアの原点とする方針の統一を図り、話し合いにより決定する。 ・日々のサービスの提供を振り返り、理念に沿った実践が行えているか、定期的に確認し合う機会を持つ。	3カ月
2	26	○チームでつくる介護計画とモニタリング 介護計画は管理者が作成しているが、全職員の共有意識のもと、日々のケア実践に活かせるよう、担当職員が作成できるようにしていく必要がある。	本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人・家族・必要な関係者と話し合い、日頃から本人や家族の要望等を反映した介護計画を担当職員が作成していく。	・担当職員が中心となり、カンファレンスやモニタリングを行っていく。 ・サービス担当者会議などで、本人・家族や関係者等の意見を伺い、介護計画に反映できるようにしていく。	6カ月
3	49	○日常的な外出支援 近くの大型スーパーでの買い物など、利用者の希望に沿った外出支援に向けての実践方法の再検討が必要である。	普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるような機会を提供できるようにする。	・利用者様の希望を把握するためにも、聞き取りやアンケート等で意見の収集に努める。 ・誕生日月に本人の希望をお聞きし、外食や買い物等で外出の機会を設けるなどする。 ・気軽に外出できるよう、家族や地域・ボランティア等の協力が得られるような体制作り心懸ける。	6カ月
4	33	○重度化や週末期に向けた方針の共有と支援 随時、家族やかかりつけ医と話し合い、方針の共有に努めているが、重度化や週末期の支援についての指針の文章化ができていない。	契約時に説明し同意を得られるよう、重度化や終末期に向けての事業所としての指針を作成する。	・事業所として出来ること、出来ないことを明確にする。 ・医療機関等との連携について改善すべき点がないか見直しを行う。 ・重度化や終末期に向けての方針を職員で話し合う。	6カ月
5					カ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。